

英國
龍動新繁昌記

丹羽純一郎譯

三篇

柳田文庫

文庫11

A1922

3

15

20

25

30

文庫11
A 1922
3

丹羽純一郎譯
眼部誠一校閱

英國龍動新繁昌記

明治十一年三月三十日版權免許

塚野

龍動新繁昌記三編

目次

新聞紙

攝政坊

附寫真

裁縫店

時器師

手技師

夜娼

隧道瀛車

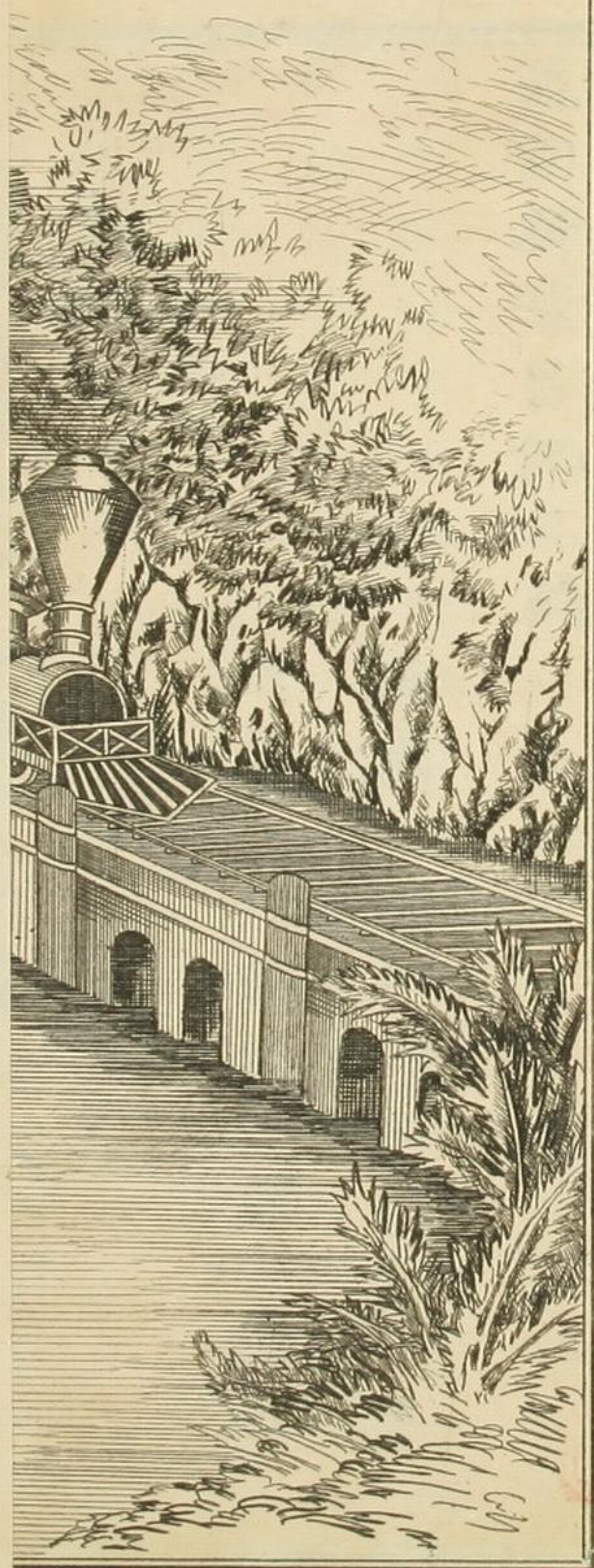
龍動新繁昌記

目次

浴

48-8125

圖之車瀛道隧



音重親每才目記
三編

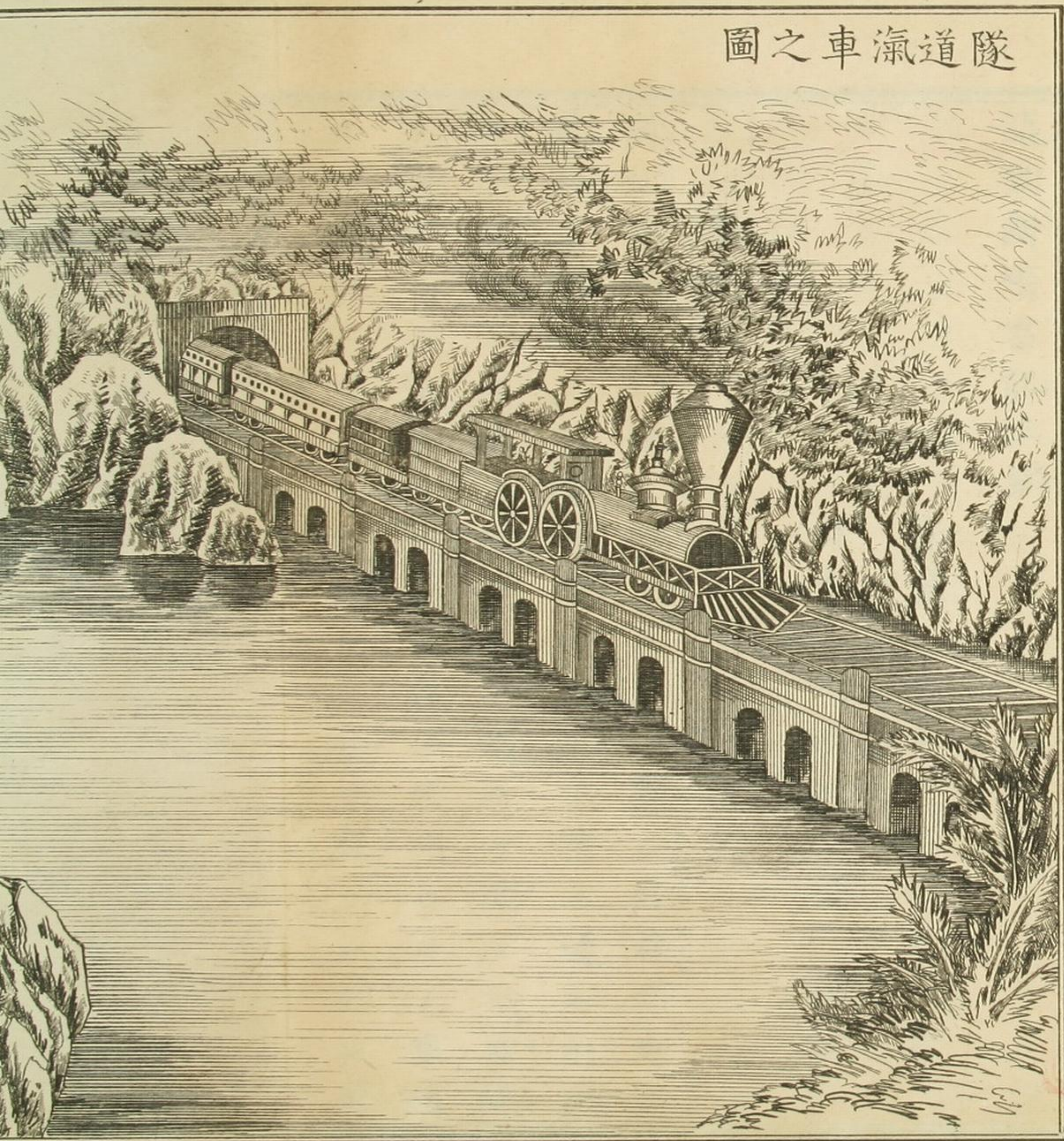
埃及館影紙

イチヂンヤンホール
龍動假館

ロンドンハベリオン
裁判所

日曜日説教

圖之車滄道隧



青重亲每片目計
三編

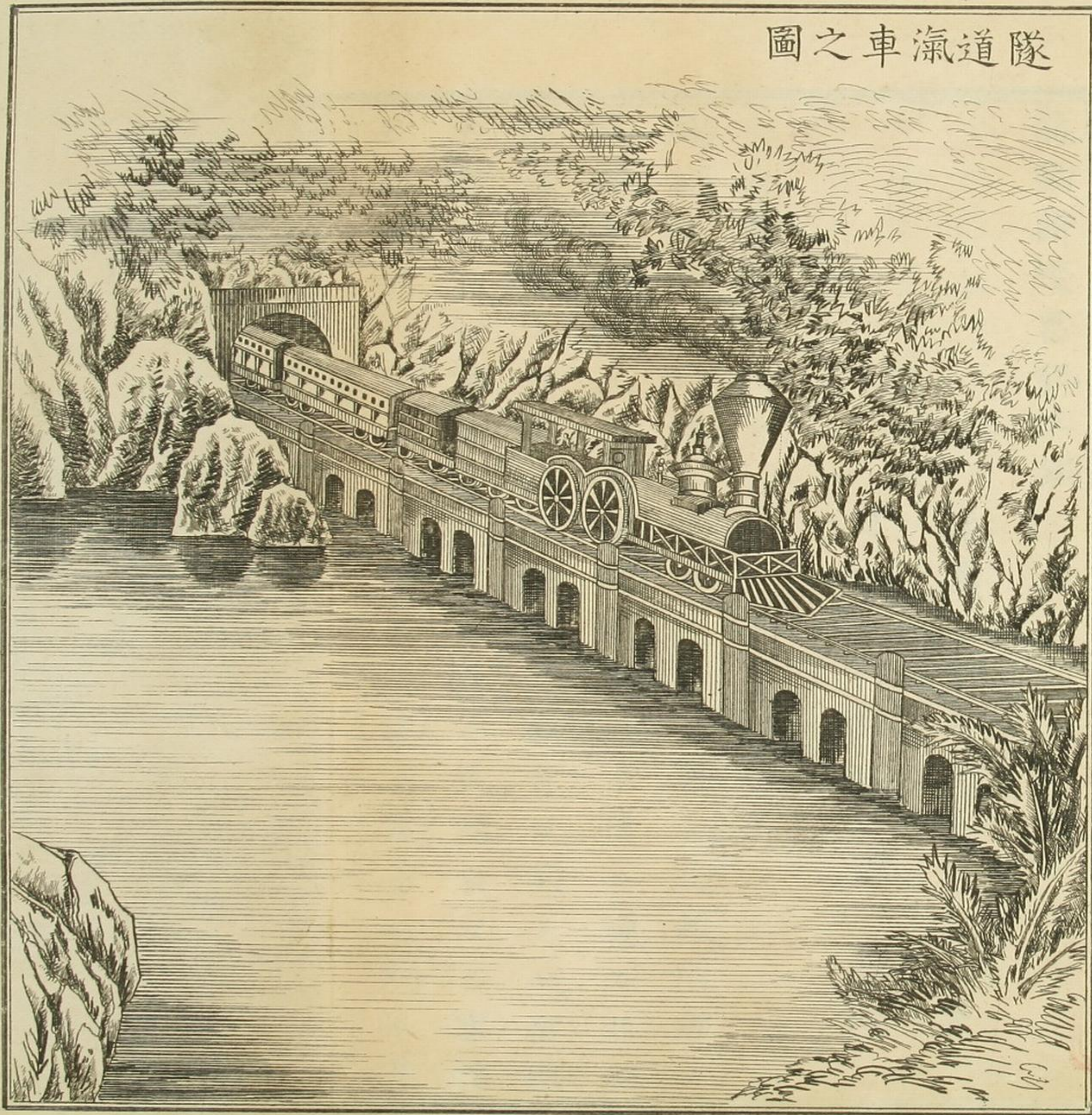
埃及館影紙

イナブ
龍動假館

ロンドン
裁判所

日曜日説教

圖之車瀛道隧



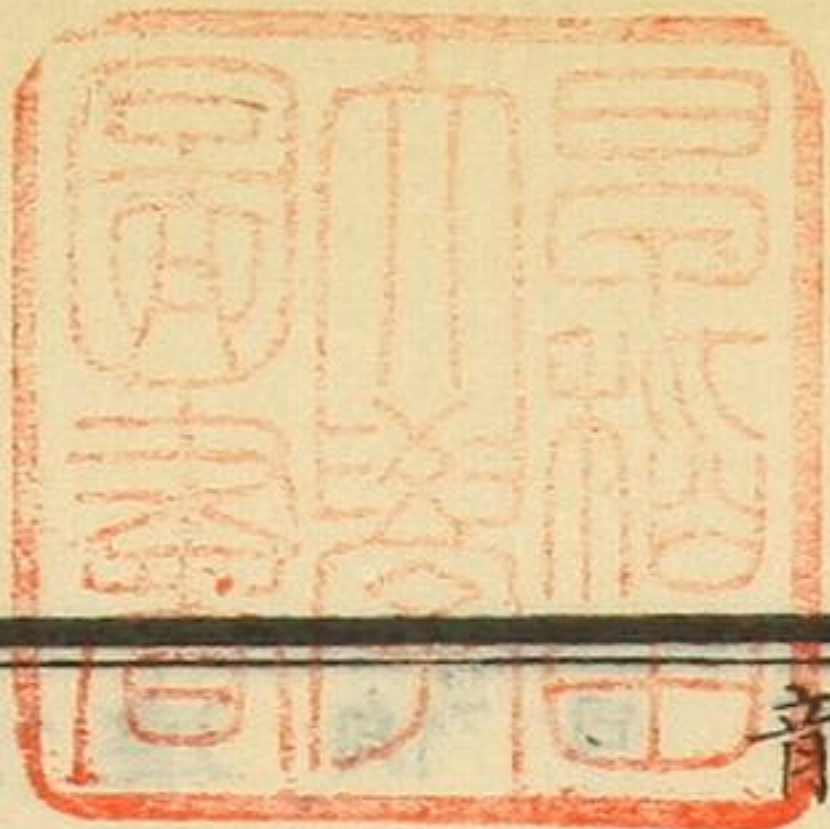
埃及館影紙
イチヂンヤンホール
 龍動假館
ロンドンパビリオン
 裁判所
 日曜日説教

圖文車庫

柳田泉文庫

龍動新繁昌記三編

英國 チヨン。マレイ 著
日本 丹羽純一郎 譯述



新聞紙

周公國風ノ詩頌ヲ讀テ、民意ヲ察シ、時頼州郡ノ
風俗ヲ巡視メ、下情ヲ探ル、上ノ下情ニ通ズルハ、
政治ヲ施シガ為メナリ、人ノ新奇ヲ聞クハ、智識
ヲ博メンガ為メナリ、上ニ在テ民間日々ノ事情
ヲ知り、下ニ居テ官府蓋々ノ策ヲ窺フハ、則チ是

龍動新繁昌記 三編

レ君民協同相共ニ國家ヲ憂フルノ道ニシテ、新聞紙ノ世ニ行ハレ、陸續四方ニ出ル所以ナリ、都下新聞紙ノ數、頗ル多シト雖、其最モ盛大ナル者ヲ舉レハ、則チ曰ク、多威模斯曰ク、日々新聞、曰ク、連朝新聞、曰ク、日々電報、曰ク、連朝報、曰ク、連朝郵知、曰ク、連朝初辰、曰ク、斯轉達社、此ハ社ハ連朝刊行ス、而ノ連夕初辰、巴爾馬爾牙塞的、俱羅伯、威津、等ノ新聞紙ハ、連夕發光ス、而ノ多威模斯、日々電報、日々新聞、斯轉達土ノ四新聞ハ、最モ都下ニ鳴ル、是レ皆ナ官吏ノ行政ヲ輔ケ、人民ノ開

智ヲ助ケ、坐ノ五大洲ノ奇事ヲ知り、卧ノ萬里外ノ事情ヲ察ス、文明開化ノ基本、蓋シ茲ニ在リト云フモ可ナリ、一紙ノ値イ多威模斯ヲ除クノ外、皆十一錢、若シ一月ヲ括ツテ之ヲ買ヘバ、連朝送リ來ル、紙皆十大ニシテ、字皆細カニ、事廣フシテ、價イ廉ナリ、小厮モ讀ミ、丁稚モ讀ミ、御者モ、婢僕モ、舉テ之ヲ讀マザル者ナシ、紙上載スル所ノ概略ハ、則チ集議院ノ議論、裁判所ノ斷獄、萬國ノ電報、海外ノ新事、内國諸縣ノ電報、各港出入ノ船舶、國土ノ豐歉、物價ノ高低、演劇ノ開場、國債ノ相場

音重新報等目記 二編

祭喪婚嫁、演説講議、俳優歌妓ノ評判、閑店開肆ノ
 報告、遺失物ノ報告、涼鴉家ノ報告、凡ソ人ノ耳目
 ニ感觸スルノ新事奇聞、大小トナク、巨細トナク、
 必ズ之ヲ記載ス、奸吏奸婦ト相ヒ懼レ、義士孝子
 ト相ヒ踴ル、恩ヲ布ク者、哀ヲ訴ル者、人ノ所在ヲ
 尋ル者、身代限リヲ出ス者、悉ク新聞ニ列ナリ、一
 日ニノ全國ニ頒布ス、而シテ各新聞ニ各自ノ持論
 アリ、甲ハ帝國論ヲ立テ、乙ハ共和論ヲ張リ、或ハ
 時ノ政府ニ黨シ、或ハ之ニ反ス、或ハ民權ヲ主ト
 シ、或ハ壓制ヲ善トス、新聞既ニ自論アリ、讀ム者

モ亦自カラ已レノ説ト相同キ者ヲ買フ、是レ各
 種ノ新聞紙アリテ、各種ノ人之ヲ讀ミ、日ニ隆ニ
 シテ、月ニ盛ニナル所以ナリ、
 二客アリ、各々新聞紙ヲ懷ニシ、某ノ樓ニ對飲ス、
 酒數行、談字内ノ形勢ニ及ビ、竟ニ土魯戰爭ノ事
 ニ至リ、互ニ政府所置ノ得失ヲ痛論シ、辨駁刺ヲ
 移セ、氏猶未ダ決セズ、口角火ヲ吐キ、舌頭血ヲ滴
 ラス、嗽々、酒冷ニ散爛ルヲモ亦知ラス、甲懷
 ロヨリ、一片ノ新聞紙ヲ出ス、即チ多威模斯ナリ、
 乙ニ謂テ曰ク、僕ガ論ズル所ハ、獨リ僕ノ臆説ニ

徳物新報目録 三編

非ズ、我ガ英國ニ於テ、尤モ憑信スベキ、多威模斯
 記者モ、亦僕ノ説ト符合ス、今試ニ其概畧ヲ讀マ
 ン、請フ之ヲ聞ケト、咳一咳ノ讀下ス、其文ニ曰ク、
 土魯ノ二國、戦端ヲ啓キ、歐洲各國、人心動搖、皆十
 汗ヲ握リ、腕ヲ扼シテ、黙視傍觀、敢テ喙ヲ其間ニ
 容レザルハ、何ゾヤ、局外中立ヲ固守ノ然ルヤ、蓋
 シ自國ノ得失ニ關係ナケレバナリ、前年李佛戰
 フテ佛敗レ、政革ツテ國窮シ、人心離レテ帝王放
 タル、獨リ李國ノ武勇、萬國ニ畏キ、聲名歐洲ニ鳴
 レリ、此ノ時ニ當テ、魯國ハ帝ニ傍觀スルノモ十

ラス、陰ニ李國ニ應援セリ、以澳ノ二國ハ、速ニ佛
 ニ應ズベシト、思察シタルニ、亦黙視ス、佛國ノ人
 民、獨リ我ガ英ノ聲援ヲ待ツト雖、前相敢テ之
 ヲ援ハズ、佛國大敗、終ニ城下ノ盟ヲ受ク、夫レ英
 佛二國ハ兄弟ノ國ナリ、車ノ兩輪ナリ、一ツ已ニ
 傷ケバ、一ツ亦衰フ、古人云ハズヤ、唇破レテ齒寒
 シト、而ノ字人ハ以為ラク、佛斃レバ英恐ルニ足
 ラズト、因テ好ヲ魯ニ通ジ、大ニ之ト結ブ、而ノ英
 ハ孤立ノ姿アリ、以澳兩國ノ如キハ國貧ニシテ兵
 弱シ、假令ヘ我ニ黨スルモ、亦一臂ノカヲ得ルニ

龍動新報
 三編

足ラズ、況ンヤ西端ヲ懷クヲヤ、而ノ魯ノ佛ニ薄
 フシテ字ニ厚キハ、則チ他日ノ遠慮アルヲ以テ
 ナリ、抑モ字魯ヲメ、今日ノ權威ヲ獲セシメタル
 者ハ、實ニ前相ノ佛ヲ援ハザルノ致ス所ナリ、豈
 慨歎セザルベケンヤ、今ヤ魯土ノ兵結ビ遇ヒ、字
 國又手傍觀スル者ハ何ゾヤ、陽ニハ局外中立ヲ
 守ルノ状ヲ粧フト雖、陰ニハ魯國前日ノ恩ニ
 報ヒ、遂ニ我ヲメ土ヲ援ケ延ヒテ魯ト戦ハシメ、
 兩虎相鬪テ、其一ノ斃ルヲ待ツノミ、而メ佛ハ國
 家多事、且ツ魯ニ憑テ、怨ヲ字國ニ報ゼントスル

ノ意アリ、以ノ如キハ、專ラ魯ヲ援ケ、勢ニ乘セハ、
 昔日、北澳ニ失フ所ノ地ヲ復セントス、獨リ澳國
 ハ、境ヲ魯土字ノ三國ニ接シ、動モスレバ、戦塵我
 ガ國境ニ及バンコトヲ憂ヒ、魯ニ黨センカ、土ニ與
 センカ、計謀未ダ定ラズ、而メ其屬部、匈加利ハ、將
 サニ好ヲ土ニ通ゼントス蓋シ、匈國嘗テ、魯澳ト
 戦ヒ、恩ヲ土ニ受ルニ由テナリ、故ニ澳國ハ、我ガ
 舉動ヲ待テ、而メ後チ、策ヲ立ルアルモ、到底恃ム
 ニ、且ラザルナリ、是ニ於テ英國ハ、愈々孤立トナ
 ラシ、魯土ノ勝敗、未ダ知ルベカラズト雖、氏魯ハ

大國且ツ兵衆フシ、恐ラクハ魯勝タシノミ、若シ
 彼ヲノ君士坦丁ヲ得セシメバ、我東印土ノ危急
 ハ、累卵モ帝ナラズ、彼必ス揚言ノ曰ハン、繼令土
 國ノ得ルモ、我豈ニ敢テ印土ヲ襲ヒ、求メテ怨ヲ
 英ニ構ンヤ、然レモ彼レ元ト、校黠至ラザル所ナ
 シ、彼ノ盟約ヲ履行セザルヲ、既ニ已ニ黒海入船
 ニ於テ見ルベシ、且ツ一千八百五十六年、五大國
 巴理ニ會メ、各々盟約ヲ結テ曰ク、一國若シ土ヲ
 撃ント欲セバ、必ズ先之ヲ四國ニ問ヒ、而ノ後チ
 撃ツベキハ、則チ撃ツベシ、同ジク七十年、龍動ニ

會メ又々此盟ヲ尋ゲリ、然ルニ彼レ盟約ヲ破テ
 不軌ヲ圖ル、土國ノ安危知ルベカラザルナリ、速
 ニ兵ヲ募リ、澳國ト合併ノ土ヲ援ケ、魯ヲ討テ歐
 洲平衡ノ權ヲ復シ、以テ世界ノ患ヲ除クベシ、設
 ハ魯兵百萬ノ多キアリト稱スルモ、我海軍ヲ分
 テニ隊ト爲シ、一ハ北海ヨリ彼得羅堡ヲ襲ヒ、一
 ハ黒海ニ備ヘテ南魯ヲ撃チ、而メ陸軍ヲ以テ北
 タ多瑙河ヲ涉リ、澳軍ト共ニ前マバ、彼レ遠征糧
 食ニ乏シク、且ツ國都ハ通商ヲ絶チ、戦ハズノ必
 ズ退カン、我輩廟堂大臣ノ、断然斯所ニ決ヲ取シ

一ヲ希望スト、甲讀ミ子テ手巾汗ヲ拭フ、乙亦ク
 新聞紙ヲ出ス、是レ日々電報ナリ、甲ニ謂テ曰ク、
 君ノ論理ナキニ非ズト雖、其國家ノ損益ニ關
 スル、如何ノ論ニ至テハ、蓋シ此社説ヲ以テ全國
 ノ公論ト為スベシ、請フ其概畧ヲ讀マン、曰ク魯
 土ノ釁ヲ窺テ、之ヲ吞噬セントスルノ意アルヤ
 久シ、今ヤ兩國ノ兵結ンテ解ケズ、蓋シ一國亡フ
 ルニ非レバ、恐ク黑海近傍ノ平安ヲ見ルヲ能ハ
 サラン、昔日西巴士多トノ役アルヤ適々佛帝ノ
 志ヲ得テ、名ヲ坤輿ニ揚ントスルノ時ニ會フ、故

ニ我兵ト合メ土ヲ援一撃ノ下ニ魯ヲ破挫シタリ
 ト雖、帝ノ意一時ノ戰勝ニ在テ、他年ノ遠慮ア
 ルニ非ズ、是レ黑海ノ盟約疎ニメ、今日ノ戰爭ヲ
 来タセシ所以ナリ、空名アツテ實利ナキハ、我
 輩ノ甘心セザル所ニメ、而メ其弊害モ亦甚シ、既
 ニ佛軍ト連合メ、魯ヲ撃ツノ結果ハ、猶其レ此ク
 ノ如シ、況ンヤ今日佛帝ノ援ナキヲヤ、且ツ土帝
 失政、信ヲ萬國ニ失ヒ、國債月ニ増シ、人心日ニ離
 ル、是レ所謂ユル天數ノ將サニ盡ントスルノ時
 至ルト云フモ可ナラン歟、苟モ天道ニ反シ、人道

龍重新報 三編

ニ悖レバ百方之ヲ救ハント欲スレ氏終ニ能ハ
ズ、今土ヲ援ケ魯ト戰ヒ、幸ニシテ勝ヲ獲ルモ國
民ヲ殺シ、國財ヲ失フノ損害ハ、年ヲ累ルニ非ズ
ンバ償フベカラズ、況ヤ勝敗未ダ知ルベカラザ
ルヲヤ、是ニ於テ我輩固ク信ズ、局外中立ヲ守テ、
妄リニ兵端ヲ開カザルハ、今日ノ得策ナリト、是
其大意ナリ、僕ノ論正サニ之ト同意戰フモ害ヲ
生ズ、戰ハザルモ亦害ヲ生ズ、寧口戰ハズシテ人
ヲ殺サザル人勝ルニ如カザルナリ、甲曰ク否ナ
君ノ論ハ所謂ユル因循姑息徒タ、利慾ニ走テ

名義ヲ顧ミズ、是レ男兒ノ大ニ耻ヅル所ト為ス、
議論央ニノ樓下報ジ、曰ク夜將サニ二十時ナラ
ントス、請フ又明夕枉駕シテ、此論局ヲ結ブアレ
ヨ、
少年五六名、榻ニ欄ニ危坐シ、各々一葉ノ新聞紙
ヲ讀ム、是レ某社ノ讀書室ナリ、甲一聲發揚メ曰
ク、僕真ノ新聞ヲ得タリ、請フ之ヲ聞ケト、高聲ニ
讀下ス、其文ニ曰ク、東洋ノ大使某、副使某、昨日龍
勸ニ來着ス、蓋シ米國ニ滞在スルヲ幾シド半年
終ニ無恙ニ着英セリ、大使某公ハ該國ノ大臣、年

龍重新報 三編

峯凡ソ五十有餘國ヲ發スルノ日ハ猶ホ古風ヲ
守リ、頭髮ヲ束子テ之ヲ頭上ニ載キ、其形恰モ松
莖ニ異ナラス、衣服モ亦從テ東洋古代ノ風趣ヲ
存セリ、着米ノ後チ未ダ幾バクナラズ、斷髮ノ洋
風ヲ學ベリ、是レ米人ノ說諭ノ致ス所ニ由ルト
雖、我輩却テ東洋ノ體裁ヲ失ヒシヲ惜ム、其副
使某ノ如キハ、皆十曾テ歐洲ニ游ビ、大ニ其風俗
ニ化スト云テ、從者凡ソ百餘人多クハ洋語ニ通
ズ、衣服悉ク洋制ヲ用井、復タ濶袖大袴半剃結髮
ノ者ヲ看ズ、唯ダ驚クベキハ從者多負聒々然ト

ノ大使ノ後ヘニ從ヒ、恰カモ牛後ノ豕羊ニ似タ
リ、聞ク大使ハ歐洲各國ヲ巡回スルノ意アリト、
我輩為メニ希望ス、唯ダニ衣食住ノ三事ニ關心
セズ、專ラ各國ノ政蹟ニ注目シテ、人民安寧ノ策
ヲ摘發セラレシヲ、而メ旅館ハ馬琴范翳舎十
リト云フ、少年讀了テ曰ク、今日幸ニ天氣晴朗、且
ツ休日ナリ、塞惹迷斯園ニ散步ノ、彼旅亭ノ前ニ
出ツベシ、恐クハ此東洋ノ大使ヲ看ルヲアラシ、
衆曰ク、諾ト、或ハ詩歌ヲ吟ジ、或ハ口笛ヲ鳴シ、靴
聲蹙然トノ去ル、

嗚呼盛ナル哉英國ノ新聞紙以テ人民ノ權利ヲ
 保ツベク、以テ社稷ノ安寧ヲ護スベク、其功巍然
 トノ泰山ニ比スベク、其名赫然トノ日月ト争フ
 ベシ、新聞一タビ出テ、上ハ政旨ヲ改良シ、下ハ民
 業ヲ勸奨シ、國法之ヨリ起リ、國益之ヨリ生ズ、凡
 ソ英人ニシテ新聞ヲ讀マザル者十ク、猫モ新聞
 抄子モ新聞、新聞々々、英國ノ新聞タルヤ、新聞ノ
 英國タルヤ、復タ辨ズベカラザラントス、羨尹曰
 ク古來英國天子、上院、下院ヲ以テ國ノ三基ト爲
 セリ、今ヤ國家ノ安危新聞紙ニ在リ、故ニ余之ヲ

加ヘテ英國ノ四基トナスト、此ノ一語以テ新聞
 ノ盛徳ヲ証スルニ足ル、
 攝政坊 附、寫真、裁縫店、時器師、手技師、夜娼
 攝政坊ハ、一千八百十三年中、姓ハ奈西名ハ戎十
 ル者、議院ノ許可ヲ得テ開ク所ニ係ル坊ノ幅員
 凡ソ八間餘、比加底理坊ヨリ始ツテ、北哥甫土ヲ
 貫キ、北夕攝政園ニ至テ終ル坊ノ左右巨肆大店
 櫛比鱗次、白碧交モ輝キ、薨楹相望ミ、一連ノ長棟
 數十店ニ亘ル、真ニ壯觀ナリト謂フベシ、家屋相
 ヒ同ジト雖モ、物品相ヒ異ナリ、糕菓ノ舖、寫真ノ

店打球ノ場、演戲ノ棚、酒舖肉肆、巾襪衣履、烟筒狹
袋、肩蓆粉具、之ヲ賣リ之ヲ鬻グ者、綉峙綺錯、向背
相接、之七八丁ノ間、殆ド立錐ノ地ナシ、之ヲ買ヒ
之ヲ購フ者、亦常ニ雜遣シ、瑤車鞍馬、肩輿、轂擊
店頭ニ、集集シ、肆前ニ蟻附ス、朝十時ヨリ、夜十二
時ニ至ルマテ、楚然ノ聲、一分抄時ノ間モ絶ヘズ
世人龍動中、繁華熱鬧ノ地ヲ數フレバ、必ず先ヅ
指ヲ此境ニ屈ス、他繁華ノ地、少ナカラズト雖、凡
皆ナ商賈ノ奔走ノ陶朱、タランコトヲ欲スルニ由
ル、獨リ此境ノ熱鬧ハ、各々既ニ殷富ヲ致シテ、其

餘財ヲ費スニ由ル、得ント欲スル者ト費サント
欲スル者トハ、其位置權力大ニ異ナル所アリ、余
故ニ此地ヲ推メ、繁昌中ノ繁昌ヲ想フベシトナ
ス、
蟻蟻ノ腐菓ニ集ル如ク、蒼蠅ノ爛肉ニ屯スルカ
如ク、男女群ヲ作シテ、店前ニ四集スル處ハ、何ゾ
ヤ、則チ寫真店ナリ、三寸ノ玉板磨ノ鏡ノ如ク、五
尺ノ身體寫メ、真ニ逼ル、眼眸明澄、將サニ語ント
スルカ、如キ者アリ、高帽盛眼、宛モ動カントスル
カ、如キ者アリ、彼ハ則チ佛國ノ名士、是ハ則チ伊

國ノ歌妓、白眼ニノ肥頰ナル者ハ、則チ字ノ比斯
 摩祿温雅ニノ絶艶ナル者ハ、則チ伊ノ巴底ナリ、
 白絹ヲ被ツテ緇衣ヲ纏フ者ハ、則チ英ノ女帝ナ
 リ、頰骨高フノ鼻下髯長キ者ハ、則チ魯ノ帝王ナ
 リ、胡髯怒ルガ如ク鼻目毛ニ埋没スル者ハ、則チ
 伊ノ賀留馬爾底ナリ、巧笑倩兮美目盼兮タル者
 ハ、則チ佛ノ皇后ナリ、幽蘭ノ空谷ニ秀ヅルガ如
 キハ、則チ稱耳孫ナリ、秋棠ノ涼露ニ泣クガ如キ
 ハ、則チ惠土撒登理ナリ、梅花ノ雪ニ立ツガ如キ
 ハ、則チ舞蘭理ナリ、梨花ノ雨ニ湿フガ如キハ、則

千歌奈ナリ、爛熳タル牡丹ノ如キハ、則チ坦嘉亞
 ナリ、桃李ノ交モ開クガ如キハ、則チ土丹利ナリ、
 菊花ノ如キ者アリ、拒霜ノ如キ者アリ、蓮花ノ如
 ク紫薇ノ如ク水仙ノ如ク、躑躅ノ如ク、千狀萬態
 盡ク挙ルニ暇アラズ、其ノ他勝地古跡、山川城郭
 ヲリ鳥獸草木ニ至ルマテ、摸寫セザルナク、人ヲ
 ノ宛然其人ニ接シ、其地ニ游ブノ思ヒアラシム、
 真ニ天下ノ奇工ト謂フベキナリ、
 佇立スル者數人中ニ漢客ニ名アリ、大袖濶袴頭
 ニ豚尾ヲ垂レ、足ニ繡履ヲ穿ツ一生指サシテ曰

長力於故

久淡粧ナル者ハ則チ締婦ノ如ク、豊艶ナル者ハ
則チ紅拂ニ類ス、綺聰ニ憑テ徒然倦ムカ如キ者
ハ則チ小蠻ヲ欺キ、眉重フメ海棠ノ睡ルガ如キ
者ハ則チ蕙小ニ非ズヤ、湖山霞ヲ罩ラ春水綠平
カニ、畫舫舷頭ニ立テ而メ笑ヲ含ム者ハ則チ西
施ニ彷彿タリ、金機柳ヲ穿テ玉梭霞ニ横ハリ、嬌
然嬌テ而メ春ヲ弄スル者ハ、織女ノ後身ニ似タ
リ、是等ノ麗妹玉姫ハ、皆チ我邦ノ産ニ係レ、吾
レ其形容ヲ傳聞スルノミ、其真ヲ見ルハ今ヲ以
テ始トナス、幸ナル哉吾レ未ダ婦ヲ娶ラズ、是レ

女子ノ余ヲ嫌ハスルニ非ズ、娶ルベキノ美人ニ
逢ハサレバナリ今此等ノ美人ニ逢フ、是レ天余
ニ好配ヲ賜フ、獨リ奈何ンセン織女ヲ擁スレ
バ必ズ牽牛ノ妬ヲ被ラン、西施ヲ娶レバ亦范蠡
ノ恨ヲ受ケン、宜ク紅拂ヲ右ニメ小蠻ヲ左ニス
ベシト、囊中ヲ探リ店主ニ就テ之ヲ買ント欲シ
一顧スレハ則チ自己ノ前後、行人蟻集シ、店主早
ク己ニ自己ノ真影ヲ寫シ去ル、
横ハ八楹、縦ハ十楹、四壁鏡ヲ掩ヒ、粲然トメ銀ノ
如シ、戸内一童ノ紫駟ニ騎メ立ツアリ、這ハ是レ

尼哥留ノ裁縫店ナリ、外套細袴、膺衣被衫、倚々丘積、鱗々雲瀉、羊絹羅紗、綠白相、雜ル、恰モ天朔風ヲ起シテ、飛霜ノ青苔ニ降ルガ如シ、緋綾ニ金紋ヲ繡スルハ、知ラス何レノ將校ノ軍服ゾ比士麻祿也、茶色ニメ黒天鷲ノ襟ヲ懸クルハ、是レ富商ノ外套ナラザル勿ンヤ、玄色ニメ衣袴相ヒ同キハ、高僧大醫ノ命ヲ仰ク者、霜降羅紗ノ短衣ハ、范叔ノ三顧ヲ待ツ者、濃茶ノ大縞ハ、鄙漢ノ夜ニ宜ク、淡藍ノ袴ハ、沼郎ノ常服ニ適ス、肆内ノ衣服山ノ如ク、丘ノ如シ、廉價ナル者ニ至テハ、則

チ一片ノ紙牌價、何磅ヲ記載ス、被衫ハ凡ソ三磅、細袴ハ約子一磅半、一領ノ衣裳、廉ハ三磅ヨリ貴ハ十磅ニ至ル、禮服ノ如キハ此例ニ非ラス、伴頭小厮數十人、萬客ト應接シ、衣ヲ縫フ者、袴ヲ綴ル者、膺衣ヲ裁スル者、被衫ヲ掌ル者、星羅棚ニ盈チ、其繁劇名状スベカラズ、而シテ此肆ト頡頏スル者ハ坊中數店アリ、繁忙モ亦同ジ、都下ノ繁昌想ヒ見ルベキナリ、
一輪檐ニ懸ル白晝ノ月、數聲耳ニ響ク午牌ノ鐘、正ニ是レ十二時、屋頭時器ノ招牌、梵然肆内ノ漏

聲鏘然梵々鏘々梵鏘梵鏘行路ノ男女皆十仰テ
 之ヲ見レハ、則チ一大時器店ナリ、店ノ正面大漏
 羅列ス、皆十是レ黄金ノ臺或ハ童子ノ時器ヲ捧
 グル形アリ、或ハ時器ノ積牛ノ背上ニ載スルア
 リ、或ハ嶮巖ノ窟裡ニ時器ヲ安クアリ、或ハ獅子
 ノ之ヲ抱クアリ、丹鶴ノ載スルアリ、玄龜ノ戴ク
 アリ、時器ノ面皆十白石磨メ鏡ノ如ク蔽フニ玻
 璃ヲ以テス、大漏ノ下ハ則チ懷中時器、金銀混淆
 珠玉星列、指環雲筆、啓鏡、鈇、船銀盤、茶瓶、酪碗
 筭刀、箸、搭、其他食器悉ク備フ、銀色ニ非ズンバ則

手金色炯々燦々、白流レ黄輝キ、煥然人ヲ射テ眼
 為メニ眩シ、恰モ金閣銀樓ニ遊ブガ如ク、肆上品
 物ノ價ヲ算フレバ、亦以テ繁盛ノ一端ヲ知ルニ
 足ル、一客アリ、時器數十ヲ觀ル伴頭叩首ノ曰ク、此ハ
 則チ精金位十八傳土ノ作ニノ機械ハ則チ古路
 迺多ナリ、價ハ六十磅、彼ハ則チ純金機械ハ龍
 頭夾嘉ノ造ル所ナリ、甲ハ則チ位十六、所謂ユル
 自鳴機比斐登ノ製ナリ、金位少ク下ルト雖氏機
 械至堅、官家有益奴家之ヲ保証ス、値ハ則チ五

十磅一片須モ下ダス能ハズ又タ一ノ銀時器ヲ
 函中ヨリ出シ、曰ク是レハ白銀ト雖モ機械ハ則
 ナ古路迺多、作者ハ則チ傳土官家外飾ノ好マ
 ズ漏刺ノ誤謬ナキヲ欲セバ、彼ノ金皮ト其實ハ
 同一般唯ダ金銀ノ差違アルノミ、値イ三十八磅
 是ヲ以テ銀時器ノ最上トナス、金銀陳列大小羅
 併ス、彼レハ佛製是レハ瑞造、看々時器數十、客ノ
 目前ニ堆ス、客目眩キ神迷フ、暫クニノ金時器ノ
 最モ小トシ、珠玉ヲ鏤刺スル者ヲ取り、反覆丁寧
 ニ之ヲ熟視シ、曰ク此價イ幾バクソヤ、伴頭曰ク

此ハ央嘉ノ作ニ最上ノ女時器ナリ、器面數粒
 ノ白キ者ハ、則チ真珠綠色ハ、則チ翠玉、紅色ハ、則
 チ降石、而ノ其中央一粒ノ光輝煌々タル者ハ、則
 チ金剛石是レナリ、値イ三十五磅、一錢モ減ズル
 能ハズ、故意聲ヲ揚テ曰ク、意廉價官家若シ之ヲ
 膠漆ノ麗珠ニ付與スルアラバ、日曜ノ寺行連夕
 ノ散歩モ分離ナカルベシ、客頭ヲ掉テ曰ク、余ニ
 妹アルニ非ズ、唯一人ノ阿妹アリ、平素意ヲ余ニ
 用ユルヲ、通常兄妹ノ比ニ非ラズ、今時器ヲ以テ
 之ニ報ヒント欲スルノミト、乃チ三十五磅ヲ投

ノ、時器ヲ懐ロニシテ去ル、伴頭後影ヲ目送メ曰ク、
吁危ト哉少年、汝ガ胸中ノ時器、將サニ失謬アラ
ントス、

三尺ノ秋水慄然トメ曰ク、一級ノ血願淋瀝トシ
紅ナリ、蓋シ甫理適内、断頭手技ノ招牌ナリ、門内
小會計局ヲ設ケ、看銭ヲ攫シ、左券ヲ賣ル、觀客麁
集、各左券ヲ買フテ其場口ニ至ル、場口入りテ一
查之ヲ其場ニ延ク、場當サニ數百人ヲ容ルベシ
場ノ正面一大布幕ヲ下ス、既ニシテ觀客蟻集、肩摩
肘接、殆ンド立錐ノ地ナシ、未ダ幾何ナラス、絲竹

合奏、大幕正ニ揚レリ、場ノ正面一脚ノ机ヲ安ク、
机上紅氈ヲ懸ケ、中央ニ一瓶ノ州花アリ、旁ラニ
大刀一揮、手中數條ヲ置ク、此時絃止ミ鼓絶シ、一
個ノ男子前シテ場ノ將サニ終ラントスル處ニ
立テ、拜一拜、咳一咳、報告メ曰ク、愛顧ノ尊姐大人、
奴家席高シト雖、口語一啓厭ハズンバ、請フ玉
耳ヲ勞セシ、小人原ト是レ伊國ノ賤奴、諸國ヲ巡
歴シ、諸公ノ庇顧ヲ荷ヒ、近日初テ龍動ニ至ルヲ
得、何ノ幸カ之ニ過ギン、榮モ亦至レリ、諸公昼夜
ヲ厭ハズ、輻々湊々、惠顧ヲ蒙ラバ、獨リ小人ノ至

幸ノミナラス、亦我社一同ノ大幸ノ云、乃今尊
觀ニ呈スル所ノ技ハ、事疎暴ニ属スト雖、亦世
界ノ一奇觀ニシテ、而ノ小人平素慣熟スル所、招牌
ニ所謂ユル、断頭ノ技ナリ、事元来容易ナラザレ
バ、若シ失敗アラバ、請恕セヨ、然ラバ則チ断頭ノ
技ヲサニ始ラントス、絃聲鼓音一時ニ湧キ、衆皆
ナ欣然、膝ノ前ハヲ覺ヘズ、乍チ見ル一娘、年未ダ
ニハヲ過ギズ、鬢髮雲ノ如ク、紅顔花ヲ欺キ、錦繡
ヲ纏フテ、男装ヲ粧ヒ、意氣揚々トシ、場ノ中央ニ
立シ、男机上ノ手巾ヲ以テ娘ノ双眼ヲ蔽ヒ、机辺

ニ至ル、娘頭ヲ延シ之ニ對メ坐ス、男右手ニ刀ヲ
取り、左手ニ娘ノ細頸ヲ撫メ、毛髮ヲ掃ヒ、起テ刀
ヲ拔ク、電光一閃、憐ハベシ、ニハ少女ノ頭一喝ノ
聲ト共ニ場ノ中央ニ落シ、觀客慄然トシ、寒心ス、
男刀ヲ拭ヒ、頭ヲ取テ之ヲ机上ニ安ク、首體處ヲ
異ニシテ、而メ一滴ノ血ヲ看ズ、時ニ素帷下テ帷内
電氣ヲ送ルノ聲アリ、少間ニ帷揚ル、頭顱故ノ
如ク、机上ニ在テ、而メ死骸猶ホ場上ニ倒ル、其衣
服及ビ位置前ニ異ナルナシ、男徐々トシ、彼ノ白
布ヲ去レバ、則チ顔色蒼々、眼閉チ口結ブ、即チ殺

ス所ノ少女ナリ、男旁ラニ立テ曰ク、諸公或ハ思
 ハン、此頭ハ活土偶、少女首ヲ衣袖ノ内ニ屈匿ス
 ルアルベシト、因テ小人電氣ヲ此頭ニ送り、目ヲ
 潤キ口ヲ開キ、死人ヲシテ一曲ノ歌ヲ唱ヒシメ
 ント、乃チ一條ノ鉄線ヲ死頭ニ加フ、忽チ見ル氣
 蘇シテ息ヲ吹キ、潤然眼ヲ開キ、高聲ニ歌フテ曰
 ク、銳刀断頸人未死、開化世間奇技多。首在机頭體
 机下、一聲猶唱太平歌。ト歌了テ絃鼓又夕鳴、幕
 下ル、衆客楚々剥々、門ヲ襲フテ去ル、
 栖鴉林ニ歸テ、遠鐘暮ヲ報ジ、家々燭ヲ点ジテ樓

々門ヲ鎖ス、此時ニ當テ坊ノ左右街燈星列、炯然
 トメ白昼ノ如シ、時ニ看ル、義人五六名、花冠深ク
 蔽フテ、金蓮步遅ク、鬢髮雲ノ如ク、ニメ媚香人ヲ
 襲フ、十二ノ金鈿重フメ、墜ント欲シ、七寶ノ瓔珞
 斜ニメ、愈光ル、行客心酔ヒ、魂飛ビ、魄奪ワル、目メ
 洛神ノ水ヲ出ルニ、非ンバ、天女ノ空ヨリ降ルト
 爲ス、美人、少年ヲ看レハ、則チ眼波秋ヲ流シ、老夫
 ヲ見ルモ亦一笑、春ヲ送ル、口語ラスメ、而メ意ヲ
 通ジ、意通テ、而メ情或ハ通ゼズ、蓋シ此情ノ有無
 ハ吾レ知ラザルナリ、行々紙管烟ヲ喫メ、朱唇雲

龍重新集

三編

十九

ヲ咄ク、人ニ逢テ言フ、請フ一縷ノ香烟ヲ喫セヨ、
此ヲ談緒ノ始トナシ、終ニ伴フテ近傍ノ樓ニ登
ル、凡ソ一時間ヲ経テ樓ヲ下リ、又夕客ヲ延キ昇
テ又夕下ル、終夜此クノ如ク昇降幾回ヲ知ラス
ト云フ、

余今攝政坊ノ繁昌ヲ記セント欲シ、事多クノ筆
至ラザレハ、悉ク記スルヲ能ハズ、故ニ談既ニ街
頭花ヲ鬻ギ、柳ヲ賣ルノ状ニ及ンデ止ム、或ハ恐
ル看官ノ余ヲ目シテ淫逸ニ奔ルノ疑ヲ挾マン
ト云、然リ而メ今爰ニ之ヲ記スル者ハ何ゾヤ、都

下此ノ坊ヲ以テ第一ノ繁昌トナセバナリ、且ツ
精軒居士ノ所謂ユル柳蔭有物如泣如訴者ト、同
一種ニメ而メ其所ト趣ヲ異ニスルニ至テハ、則
チ霄壤ノ違アルニ因ル、彼ハ則チ柳蔭暗キ處是
ハ則チ街燈明ナル處、彼ハ則チ東洋是ハ則チ西洋、彼
則チ錦繡ヲ纏フ、彼ハ則チ東洋是ハ則チ西洋、彼
ハ則チ三十年前是ハ則チ三十年後、其異同懸隔
自カラ然ルベシト雖モ、抑モ亦我邦鎖港ノ日ニ
在テ、他邦ノ開化ヲ知ラザルノ致ス所ナリ、維新
以降、事大小トナク、盡ク之ヲ西洋ニ取ル、而メ衣

食住ノ三者最モ其先ニ居ル蓋シ此三者ハ人情
 ノ欲スル所ノ者ナレバナリ若シ彼ノ柳蔭如泣
 者モ亦人情ノ欲スル所ノ一ト看做サバ則チ日
 ナラズメ蘭燈光裡ニ閑化ノ假聲ヲ吐キ昔日ノ
 本色ヲ笑フベシ豈ニ我繁昌ヲ増ザランヤ余後
 世才子ノ出テ其開化繁昌記ノ著アルヲ待ツ而
 已

隧道瀛車

嗚呼盛アイダククラカニドレハクイナル哉人智ノ日ニ進スク原野ノ月ニ開
 クルヤ西郷ヨリ龍動ニ至ルノ間行程僅カニ數
空ストニヌネ

丁ニ過ギガレ氏昔日ハ野草荒涼行路將サニ迷
 ントス今ヤ街衢縱横樓閣鱗次車馬織ルガ如ク
 市塵湧クカ如シ巴威得園ハ幅幘數十丁老樹鬱
 稠荆棘叢ヲ為シ嘗テ強盜ノ伏匿スル所ナリシ
 ガ今ヤ百花爛熳瑤池激灩魚鼈波ニ躍リ好鳥樹
 ニ轉ズ十字ノ軍ハ狂顛ノ鬪競ニ属シ七日ノ斷
 食ハ舊教ノ迂訛ニ歸シ長髮脚絆ハ高帽細袴ニ
 變ジ貧兒僕僕ハ陶朱素封ト為ル文ノ進ハ日一
 日ヨリ盛シニ人ノ開クル月一月ヨリ速カナ
 リ是ヲ以テ昨日ノ新奇ハ則チ今日ノ陳腐トナ

リ、今日ノ時、様ハ則チ明日ノ蜀狗トナル、長生殿
 裏揚妃私語ヲ為ス時、穴居裸體ナル者ハ則チ今
 日開化ノ英帝ノ祖先ナリ、東ニ鼓腹擊壤ノ政治
 アル時、西ニ争鬪横恣ノ鄙風ヲ為ス者ハ則チ今
 日文明ノ英民ノ始族ナリ、然ルニ星移リ物換リ
 今日ノ更革ヲ觀ル、是レ豈ニ氣運ノ然ラシムル
 所ニ非ズシテ何ゾヤ、而シテ其尤モ變換ノ尤モ簡
 便ナル者ハ、則チ龍動隧道ノ瀛車、是レナリ、都下
 上世ヨリ馬車ヲ用ユ、一日數十里ヲ行クヘク、十
 日數百里ヲ走ルベク、花ニ雪ニ寒ニ暑ニ一玉趾

一金蓮ヲ勞セズ、數里ノ外ニ遊ビ、遊覽ノ良具
 ハ馬車ニ如ク者ナシト雖、凡獨リ急變異事ニ馳
 走スルト、金穀木石ヲ運搬スルトニ至テハ、則チ
 瀛車ノ飛奔ノ、一時ニ數十里ノ遠キヲ驅ケ、一車
 ニ數千斤ノ重キヲ載スルニ如カザルナリ、而シテ
 瀛車ノ世ニ益アル最モ多シ、兵ヲ千里ノ外ニ出
 スニ、彈藥輜重ヲ運送スルニ宜シク、商賈ノ物價
 低昂ヲ察メ、遠國ニ賣買スルニ宜シク、演戲觀場
 ニ往クニ宜シク、花街柳巷ヲ訪フニ宜シク、又急
 病醫ヲ迎フル等ニ宜シク、而シテ其價イ馬車ニ半ス

何トナレハ則チ、彼ハ馬御合セテ六脚且ツ車二
輪ニノ僅ニ兩人ヲ載ス、此レハ數輪ヲ走ラセテ
能ク幾千客ヲ乗スベシ、是レ瀛車ノ盛ニ行ハレ
テ、輕輓輾軋ノ聲、闔都ニ曳ク所以ナリ、
隧道瀛車ハ、葩典哥頓ニ起テ、茂藝登街ニ終ル、行
程三里半、街衢市店ノ下ヲ穿鑿ノ一條ノ大路ヲ
通ズ、左右皆十練瓦石ヲ以テ築キ、其形門字ニ似
タリ、而ノ二條ノ缺道、其間ニ横リル、晝猶ホ黯淡
咫尺辨ズベカラズ、凡ソ六丁毎ニ停車場ヲ置ク
曰ク、惠智倭街曰ク、米嘉街曰ク、方登蘭街曰ク、賀

和街曰ク、金屈胡路曰ク、波輪頓街曰ク、遠留達門
曰ク、茂藝登街、停車場ノ幅、幘大約子十餘間、街燈
數十、倚子數百、一里標アリ、白墨ヲ以テ、此處昇降
道ノ五字ヲ書ス、蓋シ乗客一停車場ヨリ他ノ停
車場ニ到リ、闇黒ノ地下ヲ去テ、再ビ地上ニ出ル
ノ道ナリ、今一條ヲ缺路アリ、同ク地下ニ通ズ、面
春館ヨリ起テ、彎曲終ニ葩典哥頓ノ停車場ニ到
テ合ス、其間十二ノ停車場アリ、曰ク、舞烈氣布羅
曰ク、轉布留曰ク、查輪胡路曰ク、宇惠須登民曰ク
千慈無須街曰ク、比久登里亞曰ク、何曰ク、何、是亦

隧道黯黒、汽車連朝六時ヨリ發テ連夜十二時ニ
終ル、毎十分時ニ一車、面春館及ヒ茂藝登ノ兩停
車場ヨリ出テ、互ヒニ往還シ、車數凡ソ幾何ク十
ルヲ知ルベカラズ、而ノ一連ノ汽車、乗客常ニ盈
チ、朝暮ノ如キハ半テ乗ルニ非ズンバ、終ニ之ヲ
失ス、吁、地上熱鬧、肩摩、轂擊、而ノ地下モ亦人跡雜
道、汽車絡繹ス、其繁昌想ヒ見ルベキナリ、
嘗テ聞ク、古昔ノ神仙、皆十風雲ニ駕シ、蛟龍ニ跨
リ、雷ニ鬼神ニ鞭ツテ、雷霆ニ御スルノミナラス、
即チ列子ハ風ニ駕シ、黃帝ハ龍ニ駕ス、手技師ハ

劍ニ乘リ、狡黠况ハ虎ニ騎シ、又遊蕩子ハ鷹ニ駕
ノ揚州ニ遊ブ、此等ノ物ニ駕スル、迅ハ則チ迅ト
雖、氏、危險最モ甚シ、獨リ汽車ニ至テハ、則チ然ラ
ズ、極メテ迅ニメ、而ノ危カラズ、價イ廉ニメ、而ノ
得易シ、是レ一タビ西洋ニ行ハル、ヤ、忽チ東方
ニ及ボシタル所以ナリ、
一客アリ、高帽長被、片眼鏡ヲ懸ケ、一枝杖ヲ曳キ、
醉歩、踉々、停車場ニ来リ、高聲呼デ曰ク、場丁々々
瀟車何時ニ嘉倭街ニ到ルヤ、場丁首肯メ曰ク、一
分時アルノ三、請フ速ニ乗レヨ、客忙ハシク袴間

龍功所終書已 三編

ヲ探リ、一時令ヲ出シ、上等ノ紙券ヲ買ヒ去ント
 ス、券ヲ賣ル者、會計局内ヨリ高聲ニ呼デ曰ク、券
 價九片須、請フ三片須ヲ取レヨ、客倉惶之ヲ收ル
 ニ暇アラズ、曰ク曾テ關セズ、曾テ關セズ、是音刮
 然階ヲ下テ隧道ニ入ル、聞得タリ一聲流笛ノ曉
 然タル、輾々軌々、瀛車火ヲ吐ヒテ来ル、數聲呼テ
 曰ク、須論園、建信頭、迺轉北留、々々々々、々々々々
 々々、蓋シ瀛車ノ到ル所、停車場ヲ告ルナリ、客車
 ノ来ルヲ看テ、周章支リ過ントス、背後ニ一聲ア
 リ、呼テ曰ク、貴客請フ券ヲ示セヨ、客忽々之ヲ探

クレ氏得ズ、双手ヲ懐口ニ挿メ、杖地ニ落チ、若
 然ト聲アリ、漸クニメ券ヲ得、杖ヲ拾フテ車ニ上
 ラントスレバ、乗客蟻附、人山人海、等級ヲ争フ者
 アリ、請恕ヲ道フ者アリ、友ヲ招クアリ、妻ヲ呼ブ
 アリ、正ニ是レ波湧瀾跳、沓泮鞞鞞、風雨ノ驟至ス
 ルガ如シ、客漸ニメ乗ル、車中ノ乗客前後左右數
 十人、復夕坐スベキノ寸地ナク、厓カニ膝ヲ容ル
 ノミ、既ニメ車發シテ隧道ニ入ル、左右天地皆十
 掩塞シ、只ダ前後ヲ放閱ス、故ニ東々ノ聲、輾々ノ
 響、恰モ百千ノ怒雷、一時ニ墮チ、天柱折ケ、地軸碎

クルガ如シ、星馳電走、未ダ二三分時ナラズ、早
ク已ニ第二ノ停車場須論園ニ到ル、停ル瞬間ニ
シテ又々發シ、又々停テ又々發シ、停車場ヲ過ル
一既ニ三四箇、一客車隅ニ寄テ仮寐シ、響聲雷ノ
如シ、旁ニ二生アリ、甲乙ニ道テ曰ク、此痴漢沈醉
上等券ヲ得テ、而メ下等ノ車ニ乗ル、多客群坐、手
足ヲ伸ス能ハズ、愚モ亦甚イ哉、蓋シ客券ヲ手ニ
メ眠ルナリ、既ニメ車又々第三ノ停車場ニ着ス、
二生曰ク是レ嘉陵街ナリ、宜ク下ルベシ、已ニ下
ラントシ、杖ヲ以テ睡客ヲ一衝シテ曰ク、是レ好
ト

ガ下ルヘキノ停車場ナリ、客驚キ起キ、周章將サ
ステイヨミゲット、アウト
ニ車ヲ出ントスルヤ、否ナ一聲瀆ヲ漏ラシ、轆々
然トメ車又々發ス、仰テ日月列星ヲ見ズ、伏テ草
木土石ヲ辨ゼズ、冥々闇々、唯タ濕風ノ冷ナルヲ
覺ス、忽チ看ル一点ノ硝燈光輝ヲ放チ、車輪軋々
鐵ヲ轆リ来ル、車内街燈皎メ白日ノ如シ、内ニ等
級アリ、上中下ヲ分ツ、上等ハ則チ硝戸草花ヲ画
キ、翠帳濕風ヲ避ク、榻皆ナ緑羅紗ヲ以テ包ミ、左
右ニ肱ヲ載スベシ、乗客八名ヲ限リトス、中等ハ
則チ紅絨蒲團ヲ設クルノミ、硝窓ニ帳ナク、乗客

亦限ナシ、下等ハ則チ凳子皆ナ素木ニシテ一片ノ布帛ヲ用ヒズ、衆客雜居ス、男女ニ客アリ、男新聞紙ヲ讀ミ、女窓外ヲ看ル、蓋シ車ノ停車場ニ停留スルノ時ナリ、一老客場上ニ逍遙ス、偶然此ニ客ヲ看テ、獨リ黙頭ノ曰ク、余嘗テ公使ニ随テ清ノ北京ニ在リ、幸ヒ職務閑散、日々數書ヲ讀ム、華ナル者アリ、常ニ其夫ト車ヲ同ス、彼レ頗ル絶色、以フニ今看ル所ノ者、亦夕薜華ヲ学ブニ非サルナカラシヤ、吾老ヒタリ復タ此快事ナシ、吁矣、嗚々去テ隣車ノ前ニ佇立シ、又タ以為ラク、這ハ

是レ某ノ貴公子ナリ、間式ヲ過ルニ非ズト雖氏、豈ニ亦魏文侯ニ擬スルナカラシヤ、言ヒ了テ又タ其隣車ノ前ニ行ケハ、則チ車内雜沓、乳母ノ嬰児ヲ擁スルアリ、村婆ノ痴童ヲ携ルアリ、車夫モアリ、小厮モアリ、權奴モ亦車嬰婢モ亦車、踞メ睡ルアリ、倚テ憩フアリ、客慨歎ノ曰ク、余レ數書ヲ讀ムト雖氏、未ダ曾テ此等ノ人ノ乗車ヲ記スルアルヲ見ズ、今若シ諸葛孔明ヲメ此車ニ駕シ、羽扇ヲ廢メ、鐵蓬ヲ執リ、綸巾ヲ棄テ、高帽ヲ穿テ、而メ三軍ヲ進退セシメバ、其縱橫馳騁、當ニ曹操ノ

靴ヲ棄テ仲達ノ杖ヲ忘レテ奔竄シ、天下ヲ三分
 スルノミナラズ、亦五大洲ヲ併吞スベシ、吁惜イ
 我呼惜イ我背後一聲アリ、曰ク今先生ノ道ヲ所
 何ノ演史ノ老客答ヘテ曰ク、余車中熟眠シ来リ、
 頓ニ夢覺メテ車ヲ下ル、乃チ寢語ノ餘ナリ、聲ア
 リ又夕曰ク、宜ベナリ、余萬國ノ語ニ通ズト雖氏、
 未ダ唐人ノ寢語ヲ解シ得ズト、
 一帯ノ瀛車、炭烟白ヲ曳キ、五尺ノ竿頭、彩旌風ニ
 飄ル、此日乙屈建武兩大学校ノ生徒、舟ヲ擲水ニ
 馳セテ、輸贏ヲ爭フナリ、時正サニ四月、百花爭ヒ

發キ、東風漸ク暖カナリ、都下男女四方ヨリ來觀
 之、概子道ヲ瀛車ニ取テ波馬須美至ニ出ヅ、停車
 場中、衣香扇影、紛々蝶ノ如ク、紫袖紅裙、鞦韆々蟻ノ
 如ク、皆十紙券ヲ買テ瀛車ニ上ル、車中肩摩腕繫
 村媪五六名、里婦七八輩ト併坐シ、少姐大嬢ト相
 ヒ對シ、阿兄阿弟ト共ニ踞シ、冶郎娼妓ト膝ヲ交
 ヌ、情夫暱婦ト手ヲ携フ、老夫アリ、老婦アリ、伴頭
 アリ、小厮アリ、睡ルアリ、歌フアリ、談ズルアリ、笑
 フアリ、男女雜居シ、老少位ヲ同フス、而テ帽ニ襟
 ニ袖ニ帶ニ、皆十一片ノ淺藍色ト、深藍色トノ絹

紗ヲ縫着ス、甚キハ則チ衣帶皆十其色ヲ用ユ、蓋
 シ深藍ハ建武ノ籤色、淺藍ハ乙屈ノ標彩ナリ、觀
 客各々或ハ彼ニ黨シ、或ハ是ニ與ミシ、其為メニ
 勝タシメント欲スル、枝ノ標色ヲ用ユ、既ニノ乘
 客車ニ滿チ、一聲汽ヲ漏シ、鞦々トノ車場ヲ發ス、
 車中一書生アリ、深藍ノ衿飾ヲ用ユ、知ル是レ建
 武ヲ愛顧スルナルヲ、傍ハラニ一小姐アリ、年ニ
 ハ可リ、容姿愛スベシ、亦深藍ノ色ヲ用ユ、頻リニ
 書生ヲ顧テ而シテ未ダ言ハズ、書生既ニ以為ラク、
 彼レ余ニ意アルニ非ルナカラシヤト、蓋シ一車

ノ室數十人ヲ容ル、室狹隘ニノ客充滿シ、肱肱ヲ
 靡シ、膝膝ヲ突ク、少女靡屈セラレテ、而シテ書生獨
 リ緩坐ス、少ク坐ヲ請ント欲メ、而シテ羞色頓然猶
 未ダ言フヲ得ズ、少間ニシテ少女堪ガタリ、膝ヲ
 動かシテ書生ノ膝ヲ突ク、生喜色面ニ表ワレ、自
 カラ微笑ス、女堪ヘズシテ又タ膝ヲ動かカス、生益
 ス悦ブ、一動一喜、一靡一屈、生終ニ語ヲ發メ、曰ク、
 令娘モ亦建武ヲノ勝タシメント思フヤ、曰ク然
 リ、曰ク令娘知人ノ在ルアリテ獨行スルヤ、或ハ
 真ノ獨行ナルヤ、曰ク妾一人ノミ、故ニ早ク汽車

ノ達センコトヲ願フ思フニ今日ノ車馳騁大ニ遅
シ、生頭ヲ掉テ曰ク、否ナ車ノ迅速、平生ニ異ナラ
ズ、僕原来車行ノ速ナルヲ嫌フ、蓋シ乗車ノ長キ
ヲ好ムナリ、言未ダ訖ハラス、忽チ聞ク一聲ノ漏
氣、早ク已ニ波馬須美主ニ着スルヲ報ス、少女曰
ク、請フ起テ停車場ニ来ルヤ否ヲ見ヨ、書生曰ク
唯々、乃チ起テ頭ヲ車窓ノ外ニ出セバ、則チ一点
ノ輕風来テ帽ヲ吹キ落シ去リ、即チ車停止場ニ
着ス、

埃及館影紙

手技ヤ、影紙ヤ、演史ヤ、皆十繁昌ヲ鳴ラシ、文學ヲ
鼓スルノ具ナリ、今埃及館ニ於テ之ヲ演ス、館ハ
比嘉傳里街ニ在リ、晝夜ヲ閉ハス、觀客蟻集ス、門
上ニ一大招牌ヲ掲グ、蓋シ華旗ノ郵船沈没ノ圖
ナリ、黒龍巖ニ蟠ツテ鐵橋折テ疾風濤ヲ捲テ玉
山摧ク、夜黒フシテ雨猛ク、大洋颶風ノ景况、馬シ
出タシテ見ルガ如ク、觀者ヲノ寒毛ノ生スルヲ
覺ヘガラシム、場ノ左右ニ榻子ヲ列シ、男女雜居
皆ナ就テ踞ス、正面ニ布幕ヲ張り、幕中人アリ、啓
一啓ノ曰ク、今回看官ノ一笑ヲ博スル所ノ者ハ

龍動新繁記 三編

則々米船ノ印土洋ニ沈没スルノ景状ナリ時ニ
四面戸障ヲ鎖シ絶テ光線ヲ容レズ場中晝ル夜
ノ如シ須臾ニノ暗空雷鳴リ濤聲鞺鞳タリ一線
ノ電光閃々トノ暗空ニ飛奔シ一大巖石ノ岐然
トノ波間ニ立ツヲ見ル電光去テ又夕闇黒雷鳴
益々甚ク猛雨盆ヲ傾久暗中忽テ一大漁船ヲ現
出シ怒濤ニ漂流シ来ル檣折レ楫推々布帆裂ケ
テ颶風ニ飄ル船人皆ナ匍匐シ老少轉輾ス啼哭
ノ聲ハ怒濤ノ響ト合シ風雨ノ聲ハ奔雷ノ鳴ル
ニ交ル其間電光暗ヲ射テ光線閃々タリ看々鯨

濤氣船ヲ擁シ来テ巖石ノ上ニ盪驅シ去ル船破
裂ノ一半ハ浪ト共ニ行ク所ヲ知ラズ一半ハ巖
上ニ止リ船人皆ナ沈没シ或ハ檣ニ攀ルアリ或
ハ板ニ憑テ泳グアリ夫ハ妻ヲ顧ルニ暇マナク
親ハ児ヲ救フニ策ナシ親子兄弟夫婦朋友皆ナ
狂瀾怒濤ト共ニ散亂ス此時雨止ミ風收リ波亦
静ニ雲間厓カニ半月ヲ現シ巖上破壊ノ船ヲ刺
マシテ夜色凄然唯ダ遠雷ノ聲ヲ聞クノミ四面
戸障開キ日光場ニ容リ正面ノ布幕依然トノ前
ノ如シ觀客夢ノ覺ルガ如ク一驚相顧テ場ヲ出

龍動新繁記 三編 三十一

龍重新編 卷之三

登レリ、因テ之ヲ取リ、火上ニ炮ノ石曰ニ下シ、粉
推ノ之ヲ茶椀ニ投ジ、湯ヲ加フ、客ノ場前ニ在ル
者數十人、盡ク之ヲ喫ス、群客喝采曰久、嗚呼驚ク
ベキ哉、何ゾ其登成ノ速ナルヤ、伎人再拜頓首、
幕正サニ下ル、嗚呼奇ナル哉、妙ナル哉、伎人ノ手
巧ヤ、機械アリテ然ルヤ、幻術アリテ然ルヤ、萬客
眼目ヲ凝シテ之ヲ看テ、而メ未ダ嘗テ其技ヲ看
破スル者アルヲ聞カズ、宜ナル哉、其看錢ヲ博ム、
日ニ大利ヲ獲ルヤ、然レモ獨リ伎人ノモ能ク然
ルニ非ラズ、凡ソ方今上ハ公卿太夫士ヨリ、下ハ

農工商賈ニ至ル迄、皆ナ奇技妙藝ヲ施メ、生計ヲ
立テザル者ナシ、彼ノ俸祿ナク、産業ナフシテ、能
ク妻妾婢僕ヲ育シ、才智ナク、學識ナフシテ、能ク
貴位高官ニ昇リ、或ハ金ナフシテ、錦繡ヲ飾リ、家
ナフシテ、瑤輿ニ乘ルガ如キハ、果シテ何等ノ奇
技、奇術アリテ能ク然ルヤ、余未ダ知ルヲ能ハサ
ルナリ、然レモ其奇技破レ、奇術見ハレテ、遂ニ身
ヲ落トシ、生ヲ失スル者モ、亦歳ニ幾千人ナルヲ
知ラズ、諸ヲ技人ノ萬客ニ看破セラレザルニ較
スレバ、孰レカ優リ孰レカ劣ル、未ダ必ズシモ余

龍重新編 卷之三

ガ喋々ヲ待テ、而メ後知ラザルナリ、抑モ余モ亦一貧生、厪カニ人ノ言ヲ寫メ、口ヲ糊スルノミ、亦將サニ技人ニ就テ、麦ノ速ニ登成スル技術ヲ学バントス、

裁判所

龍動ハ繁華ノ世界、奢ヲ鬪シ、侈ヲ競ビ、以テ萬人ノ耳目ヲ驚ス者、阿賀戒留ノ踏舞、隧道ノ汽車、歌曲館ノ演劇、新聞紙ノ種類等、屈指ニ暇アラズ、而シテ此繁華ヲ致シ、其尤モ萬國ノ人口ニ膾炙スル者ハ、則チ裁判所ヲ以テ巨臂ト為ス、而シテ其建築

ノ華美ナルニ非ラズ、又其結構ノ壮大ナルニ非ラズ、蓋シ其法律ノ民情ニ適スルト、其之ヲ行フノ方正ナルトニ由テノミ、

裁判所ハ西郷ニ在リ、英帝維廉二世一千百年中創テ之ヲ建築ス、厥後チ一千三百九十七年、理查的第二世、詔メ修理ヲ加ヘ、始メテ土墻ヲ建築ノ棟梁ヲ新造ス、木剝ルニ鉋ヲ用ヒズ、石磨スルニ刀ヲ用ヒズ、斧痕猶ホ存シ、頑石固ク踞ス、民選議院ノ始メテ起ルヤ、議員此處ニ會メ、國帝替立ノ事ヲ議スト云フ、而シテ英國ハ四裁判所ヲ以テ、上

等トナス、曰ク查志禮廳、曰ク帝王廳、曰ク民訴廳、
 曰ク公稅廳、而ノ上院之カ措訴ヲ受ク、查志禮廳
 ハ則チ司法卿臨ンデ訴ヲ聽キ、帝王廳ハ則チ一
 等判事、民訴廳ハ則チ二等判事、公稅廳ハ則チ事
 アルニ際シテ、判事茲ニ臨ム、其他刑法廳、區裁判
 所、警視分署ノ如キハ、枚舉スルニ暇アラズ、司法
 卿ノ年俸、一万磅、一等判事ハ、則チ八千磅、二等判
 事ハ、則チ七千磅、等下テ俸モ亦下ル、而メ判事ノ
 俸、皆十内閣ノ大臣ニ較スレバ、或ハ倍ス、而メ一
 タビ判事ニ任ズレバ、死ニ抵ルマデ在職シ、曾テ

免職セララル、ガ如キ者ハアラザルナリ、蓋シ大
 俸ヲ得テ免職ノ憂ナキハ、原ト故アリテ然ルナ
 リ、昔者帝王國權ヲ擅マ、ニメ、人民ヲ苦惱スル、民
 帝王ノ憲法ニ背戾スルヲ以テ、其苦情ヲ訴フ、判
 事方正、法ヲ以テ之ヲ處セントスルニ當リ、帝王
 其職ヲ褫テ、更ニ判事ヲ任ズ、人民又訴ヘテ、判事
 又之ヲ處セントメ、又々放タル、訴訟若シ國帝及
 ビ大臣ニ關スレハ、則チ貴重ノ法律モ行ハレス、
 強テ之ヲ行ント欲スレバ、忽チ職ヲ放タル、故ニ
 裁判公平ナラズ、人民憤怒メ國政衰へ、終ニ一千

六百四十二年ノ大亂ヲ提起シ、天子弑サレテ大
臣梟セラレ、維廉第三世一千六百八十年ニ至テ、
更ニ憲法十二條ヲ設ケ、始メテ判事ノ俸祿ヲ増
加シ、國帝ヲメ擅マ、ニ之ガ職ヲ免ズルヲ能ハ
ガラシム、是ニ於テ國法始テ行ワレ、人民枕ヲ高
クシ、遂ニ以テ今日ノ盛政ヲ致スニ至レリ、嗚呼
文明唱ヘ易ク、開化言ヒ易シト雖、其**實効**ヲ奏
スルハ甚ダ難イ哉、
廳ノ延袤數十間、正面ニ一級高キ處アリ、**筥子**五
六脚ヲ置ク、中央ハ則チ判事ノ坐、左右ハ則チ判事

補列坐ス、右方ニ又一級高キ處アリ、**証據人**之ニ
坐ス、左方ノ地位少シク高キ處ニ十二ノ榻ヲ安
ク、乃チ**監情者**ノ坐ナリ、地位最モ低キ處ニ机ニ
脚アリ、書記生之ニ居ル、正面ニ相對ノ榻數十ヲ
列ス、**代言師**及ビ**原被告人**ノ為ニ設ク、其背ニ當
テ又夕數榻ヲ列ス、一榻一榻ヨリ高ク、皆十正面
ニ嚮フ、蓋シ**傍聽人**ノ坐ナリ、其上ニ樓アリ、廳中
ヲ臨ム、女子茲ニ來テ**傍聽ス**、而ノ判事ノ背後ニ
數百卷ノ書ヲ積ム、皆十法律書ナリ、**傍聽場**ノ左
右ニ道アリ、以テ**往來スベシ**、廳中ニ入ル者必ズ

謹デ大聲ヲ發セス、聲音モ亦憚ラザルニ非ズ、蓋シ其原被ノ問答ヲ妨グルヲ恐レテナリ、朝九時ヨリ廳ヲ開キ、午後三四時ノ間ニ至テ閉ツ、開廳中巡查三四名立テ門ヲ護ル、傍聽セント欲スル者ハ先ヅ之ニ問フテ而ノ後チ入ル、凡人タル者英人外客男女老少ヲ論ゼズ皆チ來テ傍聽スルヲ許ス、訴訟起ルノ日ヨリ、監情者十二人ヲ撰ミ、之ヲノ情ヲ察シ、曲直正邪ヲ判セシメ、然ル後チ判事律ニ照ラメ其罰ヲ定ム、蓋シ監情者ノ制策尊ノ時ニ當テ始メテ起リ、今日ニ至ルマデ連

綿トノ絶セズ、英人之ヲ民權ノ一ニ置ク、而ノ監情者、官ニ列スル者ニ非ズ、皆チ市民ヨリ投票ニ由テ之ニ任ズ、著家アリ、靴商アリ、工賈アリ、肉商アリ、曾テ貴賤貧富ヲ論ズルナシ、罪人若シ此十人ノ一人ヲ嫌ヘバ、即チ之ヲ換エ、罪ノ有無ヲ判テ悉ク同議ニ出デズンバ、其判ヲ取ラズ、又更ラニ十二人ヲ擧テ判セシム、蓋シ談判一ナラザレバ、猶ホ至公ニ戻ルヲ免レザレバナリ、嗚呼至レル哉、盡セル哉、英國ノ法ヲ施スヤ、而ノ判事俸祿多クノ免職ノ大憂ナキガ故ニ、私謁自カラ納レ

ラレズ、苞苴亦行ハレズ、法ヲ施スニ私枉ナク罪
 ヲ論ズルニ愛憎ナシ、且ツ人民監情ノ共ニ罪ノ
 有無ヲ判ス、縱令判事彼ヲ罪メ是ヲ免サント欲
 スルモ、亦得ベカラズ、況ンヤ此クノ如キノ惡弊
 ハ、人民ノ夢ニダモ入ラザルヲヤ、既ニ集議院ア
 リテ政令行ワレ、又此裁判所アリテ法律ヲ施ス
 事トメ公明ナラザルナク、物トメ正大ナラザル
 ナシ、宜ナル哉一小國ヲ以テ、世界萬國ニ冠タル
 九時ノ鐘聲吼々、晴ヲ報ジ、朝曦已ニ高フシテ人

跡漸ク忙ハシ、廳ノ門前巡查西三名、立テ早ク已
 ニ門鑰ヲ放テ、廳中訟ヲ聽カントス、白髮白鬚ニ
 ノ黒衣ヲ着ケ、肩ニ深紅ノ袈裟ノ如キ者ヲ掛ル
 者ハ、則チ一等判事某ナリ、白髮ノ假髻ヲ被リ、判
 事ト一樣ノ衣ヲ着スル者四五名アリ、是レ則チ
 判事補某々ナリ、判事ハ中央ニ坐シ、他ハ其左右
 ニ倂坐ス、又看ル白髮ノ假髻ヲ載キ、黒衣ヲ着テ
 手ニ二三卷ノ書ヲ執ル者五六名、笑語啾々、逍遙
 ノ来ル、原被告人モ来リ、傍聽人モ亦来ル、何モ来
 リ何モ来ル、既ニ廳中人滿チ坐定ル、判事低音

ニソ曰ク、昨日某ノ件半ニ止メリ、速ニ証據人
ヲ呼ンテ其虚實ヲ糺スベシ、一白髻ヲ載ク者立
揖メ曰ク唯々、蓋シ某ノ件ハ則チ婦ノ離縁ヲ請
フモノナリ、時ニ看ル一美人年二十一、二可ク花
冠ヲ戴キ、濃然ノ衣ヲ纏ヒ、從容トメ証據人ノ坐
ニ就ク、顔色花ノ如ク、臉邊霞ヲ上ス、廳中ノ人皆
目ヲ此婦ニ注グ、代言人正面ニ對メ曰ク、此女
ハ即チ原告某ノ妹ニシテ、此件ニ係ル第一ノ証據
人ナリ、判事女ニ向ヒ右手ヲ揚グ、女亦手ヲ揚グ、
判事曰ク、我輩ノ言フ所盡ク信實ナリ、因テ天地

ニ誓フ、女復タ言フ判事ノ如ク言テ更ニ曰ク
妾ハ某ノ妹某ナリ、一日閑ヲ得テ某ノ遊園ニ道
遙ス、時正サニ首夏、緑樹陰ヲ爲シ、殘鶯葉間ニ囀
ル、妾ノ性太ダ鶯ヲ愛ス、因テ聲ヲ求メテ覺ヘズ
樹林ノ中ニ入ル、忽チ認得タリ、男女ノ樹下ニ坐
スルヲ、遠クシテ之ヲ視ヘバ、男ハ則チ妾ガ阿姉
ノ夫某ナリ、妾錯愕何ノ故アリテ彼ノ茲ニ來ル
ヲ知ラズ、身ヲ深叢ノ中ニ忍ビ、其女ヲ視ヘバ年
僅カニ二ハヲ過ギ、容姿艷麗、衣服モ亦美ナリ、是
レ必ズ一個ノ小姐ナルヲ知ル、妾兩人ノ茲ニ在

ル所バシヲ知ラント欲シ、益ス深ク伏匿ス、少焉
 カニノ少女ノ聲アリ、耳ヲ欵テ聞ケバ、則チ曰ク
 妾始メテ君ニ逢フノ日ヨリ、眷戀ノ情起リ殆ン
 ド寢食ヲ安ンゼズ、鳥ノ鳴ガル日アルモ、君ヲ思
 ハガル日ナク、雨ノ朝々風ノ夕べ、起テハ思ヒ寢
 テハ夢ニ、意中私カニ為ラク、人生レテ女ト為
 ル者、孰レカ情ヲ樂マザラレヤ、而メ若シ情ヲ通
 ゼバ、直ク君ノ如キ人ニ通ズベシト、然レ氏妾知
 ル、君既ニ美細君ヲ擁スルヲ、縱令思ヲ寄スルモ、
 遂ニ妾ノ企テ及ブ所ニ非ズ、既ニノ又薄暮君ニ

途ニ逢フ、四隣人ナク、復タ遇フベカラザルノ機
 會ナリ、妾其不義ヲ知ルト雖、氏情止ムベカラズ、
 相ヒ從ヒ相ヒ狎レテ終ニ比翼ノ夢ヲ結ブ、夢重
 テ名浮ビ、已ニ人耳ニ上ボル、而メ君既ニ妻アリ、
 妾君ヲ思フ切ナリト雖、氏君妾ヲ娶ルヲ能ハザ
 ルノミナラス、若シ此事發露セバ、二人ノ耻ヲ掩
 フベカラズ、二人ノ過チ償フベカラズ、世界廣シ
 ト雖、氏一身ヲ容ルノ地ナシ、今ヤ死セズンバ、又
 夕何ヲカ為サン、説キ了テ泣キ下ル、男手ヲ拱メ
 之ヲ聞キ、潸然涙ヲ振テ曰ク、赤繩誤テ結ブ、二人

ノ悪縁、必ズ短慮方向ヲ過ツ勿レト、左手眼ヲ掩
フテ右手女ノ背ヲ撫ス、此時妾ノ胸裡悸々去ン
ト欲スレ氏、或ハ恐ル彼ニ認ラレントヲ、適マ林
外ニ咳聲聞ユ、兩人錯愕、周章樹林ヲ出テ、其行ク
所ヲ知テ、妻歸後之ヲ母ニ告ゲ、母之ヲ阿姉ニ
傳ヒ、遂ニ事茲ニ至レリ、唯ダ悔ユ妾若シ之ヲ秘
セバ、終ニ此一大難事ナカラント、代言人立テ曰
ク、是レ第一ノ証據ナリ、請フ速ニ裁決アリテ離
縁セシトヲ、被告ノ代言人曰ク、被告曾テ此事ナ
シト言ハズ、然レ氏原告ニ於テモ、亦此ト畧ボ類

似スル所ノ蹟アリ、然レ氏其証據人今佛國巴里
ニ在リ、昨日電信ヲ以テ之ヲ招ク、明日ハ則チ出
廳ノ見聞スル所ヲ陳述スベシ、請フ暫ラク裁判
ヲ下ダス勿レ、時ニ漏聲十二時ヲ報ズ、判事午食
ニ起シ、
查無志禮及ヒ公税ノ兩廳其他區裁判所ノ趣ヲ
換馬シ、以テ英國法庭ノ密ニメ煩ナラス、簡ニメ
疎ナラザルヲ揭ント欲スレ氏、亦長文ニ過ギ却
テ看官ノ倦厭ヲ生ゼントヲ恐レ、姑ク之ヲ棄テ
他ノ繁昌ヲ記載スベシ、看官請フ後篇ヲ讀テ、其

奥ヲ知ルアレヨ

日曜日説教

英國今日ノ繁盛ヲ致ス者ハ何ゾヤ、曰ク商法ナ
 リ、商法ノ道何ヲ以テ第一ノ基ト為ス、曰ク信義
 ナリ、信義ノ由テ生ズル所以ノ者ハ何ゾヤ、曰
 ク人心ノ純良ナリ、人心ヲメ純良ナラシムル者
 ハ何ゾヤ、曰ク教ナリ、然ラバ則チ教アリテ而メ
 後チ始メテ一國繁昌ノ道開ケリ、是レ英都説教
 ノ盛ニ行ハル、所以ンナリ、故ニ都下到處堂
 宇アラザルナシ、其尤モ人口ニ噲炙スル者ハ、曰

ク西郷寺、曰ク先登保留、曰ク先登馬曾路、曰ク先
 登佐美亞、曰ク轉布瑠寺、曰ク先登邊蓮、曰ク先登

賀位留、曰ク先登潘久羅、曰ク先登須地分、曰ク何
 曰ク何、枚擧スルニ暇アラズ、概子一街一寺アリ、
 其數殆ド二千ニ近シト云フ、日曜日ハ則チ説教

師必ス壇ニ登テ、人民ノ安全ヲ禱リ、且ツ教ヲ説
 久、朝九時ニ寺ヲ開キ、十一時ニ鎖ガシ、又夕午後
 三時ニ開ヒテ、五六時ノ間ニ終ル、一日ニ二回盛ン

ナル者ニ至テハ、則チ一日三回、期ニ造ンデ農工
 商賈、大臣士大夫老弱男女、蟻簇蠅化、悉ク其區内

ニ在ル所ノ堂宇ニ集ル風雨寒暑ヲ論ゼズ道路
 遠近ヲ問ハズ男隊女群肩摩肘接ス寺門ニ賽錢
 管ヲ安キ各々適意ノ賽錢ヲ投メ入ル正面ニ壇
 ヲ設ケ蠟燭火ヲ点シ十字形ヲ建シ蓋シ十字
 ハ則チ耶蘇ノ磔死ヲ忘レザルカ為メナリ壇ノ
 直下ヨリ戸口ニ至ルマデ遍地ニ榻ヲ列シ賽者
 皆十茲ニ坐ス寺門ヲ開クノ前半時間ニ蹄鐘ヲ
 撞キ以テ開門ヲ報ス賽者既ニ到レバ之ヲ止メ
 更ニ風琴ヲ鳴ラシ以テ唱ル所ノ聖歌ヲ節ス凡
 ソ一寺毎ニ賽者ニ三百名ニ下ラズ夫婦手ヲ携

へ兄弟踵ヲ列子爺婆モ固ト行キ婢僕モ亦行ク
 皆ナ衣裳整正シテ来ル故ニ英人美衣ヲ見レバ
 則チ曰ク日曜衣ト蓋シ日曜ハ天帝造化ノ奇功
 ヲ終リ始メテ休憩セシヲ以テ今ニ至ルマテ此
 日ヲ休暇トナス神ヲ敬シ恩ヲ忘レズ能ク其舊
 ヲ守ル亦是レ説教ノ然ラシムル所ナル歟
 數聲ノ蒲牢朝嵐ニ響キ一尖ノ塔宇彩霞ニ聳ユ
 此日ヤ風日晴朗都下ノ士女絡繹魚貫ノ寺堂ニ
 到ル寺ハ花卉芳樹ノ間ニ在リ早ク已ニ門鑰ヲ
 放テ賽人肉薄メ坐ス坐定テ鼓樂合奏洋々乎ト

ノ堂右ニ起リ人ヲノ肅然敬神ノ意ヲ起サシム
 既ニ一教師白衣無帽從容ト壇ニ上リ群衆
 ヲ平視人寢ヤ説キ出ノ曰ク上世我教祖衆人ヲ
 救シガ為人自ツカラ磔刑ヲ被リ體死スルト雖
 氏魂魄天ニ返リ今猶ホ天帝ノ坐右ニ在リ蓋シ
 教祖ハ天帝ノ子ナリ時ニ下界飢饉人民皆ナ草
 根ヲ食ヒ死期日ニ迫ル教祖以テ為ラク吾體ヲ化
 ノ蒸餅ト為シ吾血ヲ變メ酒ト為シ以テ人民ヲ
 救ハシト因テ天女ヲ下界ニ降ダス到レハ則チ
 人民教祖ノ遺骸ヲ擁メ號泣ス天女法ヲ行ヒ其

骸ヲノ忽チ蒸餅ト變ジ血ヲ酒ニ化セシム人民
 其血中ニ伏スレバ血滴テ口ニ入ル入レバ則チ
 甘味ヲ覺テ起テ其骸ヲ見レバ則チ蒸餅ト變ジ
 血ヲ見レバ則チ酒ト化シ蒸餅山ノ如ク酒泉ノ
 如シ喜躍手ノ舞ヒ足ノ踏ム所ヲ知ラズ蟻集蠅
 屯メ之ヲ飲食シ已ニ飽ケ氏盡ルナシ是ニ於テ
 人民蘊生シ漸クニシテ農耕ヲ勵テ衆皆ナ死ヲ
 免ル一ヲ得タリ然ラバ則チ我ガ日ニ食スル
 所ノ蒸餅ハ乃チ教祖ノ肉ニ異ナラズ酒ハ乃チ
 血ニ外ナラズ豈ニ謹デ之ヲ喰ヒ尊シテ之ヲ飲

マザルベケンヤト、説キ訖テ風琴又鳴ル、一生撮
 ニ坐ノ欲伸ス、蓋シ蒸餾商ノ子ナリ、隣坐ノ人ニ
 謂テ曰ク、我レ肉ノ決シテ蒸餾ニ化セサルヲ知
 ル、蒸餾ハ元ト麦ナリ、麦ト人肉ノ相ヒ異ナル、恰
 モ粉炭ノ白雪ニ於ルガ如シ、人ヲ愚弄スルモ亦
 甚シカラズヤ、隣人又道フ、蓋シ醬油味噌ノ類ヲ
 齎グ者ナリ、曰ク肉若シ蒸餾トナリ、血若シ酒ト
 ナラバ、則チ糞化ノ味噌トナリ、溺變ノ醬油トナ
 ラシ、若シ果シテ然ルヲ得バ、余ハ大利ヲ釣リ、殷
 富ノ中ニ安樂ノ一生ヲ終ランノミ、餾商又曰ク、

汝好シ去テ之ヲ奇化學先生ニ問ハン、語未タ了ラ
 ガルニ、教師又夕説キ出ス、兩人曰ク、吁復夕始レ
 リ、懐口ヨリ日曜新聞ヲ出メ讀一讀ス、

龍動新繁昌記三編終

明治十一年三月三十日版權免許

譯述人

丹羽純一郎

出版人

高橋源吾郎

越後國保明新田

高橋文策

東京芝三島町

山中市兵衛

發兌人

同是橋吳服町

坂上半七

第十大區三小區淺草
今戶町十一番地

第二大區一小區內幸町
貳丁目一番地



